

2023年5月15日

皆様、お変わりございませんか。
まぶしい新緑の季節となりました。
そして5月は瀬戸内寂聴さんの誕生
月。お元気でしたら15日に百一歳にな
られます。寂聴さんはこの爽やかな季
節が好きでした。

行事予定

- 根鍋の約束」の周辺」
大石征也（文学研究家・記念会副
会長）
(2) 「悲しみに殉じる」
米本浩一（作家・記念会会員）
出欠予定 別紙にて5月22日までに
事務局にお知らせください。（メー
ル・ファックス・葉書のいずれかで）
・ 当日は Zoom 配信します。Zoomで

参加希望の方はメールアドレスをご記入ください。

題字 島田聖翠

寂寥化念会だよ

鎌田慧氏（1938～ルボヴィタ）著書に『大杉栄　自由への疾走』『狹山事件の真実』『残夢－大逆事件を生き抜いた坂本清馬の生涯』など多数。

A photograph of a small, modern concrete structure with a dark roof, possibly a garage or workshop, surrounded by trees.

5月19日 寂庵訪問

- （文学書道館ギャラリー 午後1時半）

・「美は乱調にあり」「諧調は偽りなり」を読む（予定）

・朗読者（川端恵美子・斎藤礼子・松尾清美・森君代・森裕子）

11月9日（命日）

午前10時セレモニー

機関誌「寂聴」2号 発行

午後1時半より寂聴忌句会

徳島市新町川水際公園の記念碑の前

会員の中に「一度寂庵を訪れてみたい」という声があり、秘書の瀬尾まなほさん、法話会場に使っていいたサガノ・サンガの担当・馬場君江さんにご相談したところ、快諾していただきました。日程等は次のように決まりましたので、参加ご希望の方は、5月12日まで

昨年、東京・大阪・京都と巡回した展覧会が、今年は仙台で7月13日～8月7日、盛岡で11月3日～1月8日に開催される予定です。

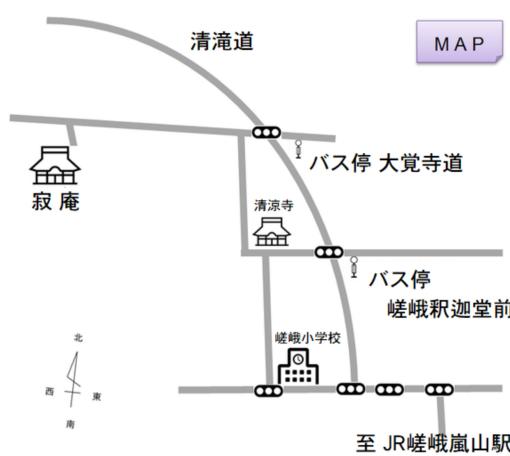
に記念会事務局にお申しつけください。

• 5月19日(金)
午後2時～3時
• 参拝のあと、瀬尾さん
のお話を伺います。

参加費 20000円程度（現地で集金
集合場所 曼陀羅山 寂庵

7
1

MAP



交通アクセス

- 京都駅からJR嵯峨線・嵯峨嵐山駅へ。北西に徒歩20分
京都駅から市バス28番大覺寺行き
「嵯峨駅迎堂前」下車(約1時間)、

「寂聴を詠む」俳句募集 2023

瀬戸内寂聴の三回忌にあたり、寂聴さんを偲ぶ俳句を募集いたします。その人柄、生き方、作品など、寂聴さんのすべてから感じ取ったものを、自由に詠んでください。どの季節であっても、季語がなくてもいいです。あなたの心の風景を表現していただきたいと思います。

この「寂聴を詠む」俳句募集は、寂

聴さんの俳句の師でもある俳誌「藍生」主宰の黒田杏子さんに選者をお願いしましたところ、大いに賛同してください、計画を進めてきました。ところが、黒田さんは3月13日に急逝され、急遽、「藍生」ゆかりの方々に選者をお引き受けいただいた次第です。

投句作品
ハガキ裏面に以下を記載してください。
・未発表作 一人一枚二句まで
・住所、氏名、年齢、電話番号
・所属結社（所属していれば）

投句料
無料

投句締切
2023年8月15日必着

賞
・最優秀賞
・優秀賞
・佳作

1句
10句
20句

投句先
瀬戸内寂聴記念会

〒770-0856
徳島市中洲町
340-802

発表

- ・10月末までに受賞者に通知し、新聞等で発表します。
- ・機関誌「寂聴」2号（11月9日発行予定）にも掲載します。

- ・作品応募後の訂正や審査に対するお問い合わせには応じかねます。
- ・他のコンクール等への二重投句、あるいは類句・類想句などが明らかになつた場合は、賞の発表後でも失格となります。

- ・応募された方の個人情報は、このイベント以外には使用致しません。
- ・選者（敬称略、50音順）
今井 豊 「藍生兵庫」代表
「いぶき」代表
句集に『席捲』『草魂』など
- 佐滝幻太 俳人（徳島在住）
句集に『空空』『湖心』
- 第六回「俳句界」俳句評論賞受賞
藤岡恒衣 「藍生とくしま」「いぶき」
所属

句集に『冬の光』
教員として句作指導を続ける

お知らせ

瀬戸内寂聴記念会では、命日の11月9日を「寂聴忌」と呼んでいます。11月9日は、「偲びつついい句作ろう寂聴忌」のキヤッチフレーズのもと、寂聴さんのふるさと徳島市で、ささやかな句会を開催する予定です。

お二人とも3月に相次いで逝ってしまいました。われ、心細いことこのうえない。今頃、寂聴さんと一緒に俳句を作つておられるだろうか。（竹内紀子）

黒田杏子さん 齋藤慎爾さん

追悼

黒田さんとの出会いは1982年8月の「寂聴連」での阿波踊り。寂聴さんが黒田さんと画家の堀文子さんをお招きして一緒に踊った。二人とも男踊りでパワフルであった。文学書道館が開館したのち講演にいらしゃり、四国巡礼の途中でも立ち寄つてもくださつた。その時「何でも協力してあげる」と励ましていただいた。

俳人・文芸評論家の斎藤さんも講演に来てくださいり、徳島の古書店を一緒に訪ねた。寂聴さんの句集『ひとり』を出版し、『寂聴伝』『続寂聴伝』を執筆、寂聴さんとの共著もある。深夜叢書社をひとりで立ち上げた出版人で、本当に囲まれて寝ているとおっしゃつていた。



「寂聴 美の「コレクション」」

徳島県立文学書道館で開催中

記念会理事の賀来真留加さんが取材し、note 「瀬戸内寂聴記念会」にアップした記事の一部を以下で紹介します。https://note.com/joyous_eel936/n/nb0d47acc314e

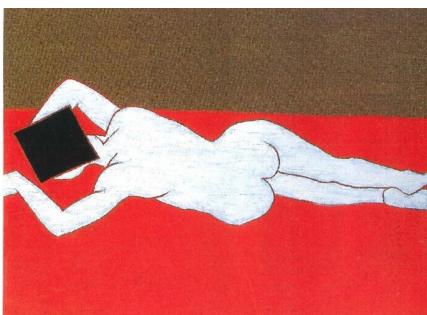


文学書道館 北玄関

寂聴記念会だより 第2号 2023年5月15日

添えられており、その画と言葉の組み合わせから物語が立体的に立ち上がってくる。は、簡素な形態、明確な色彩、「モリカズ様式」と呼ばれた。実際の画自体の大きさは30センチほどで意外と小さい。『私小説』では表紙にもなった。

体の線が妙に生々しい。熊谷の画風は、簡素な形態、明確な色彩、「モリカズ様式」と呼ばれた。実際の画自体の大きさは30センチほどで意外と小さい。『私小説』では表紙にもなった。



熊谷守一 臥裸婦

他にも、池田満寿夫から送られた観音彫刻や、榎莫山の墨絵、岡本太郎による寂聴（当時は晴美）の肖像スケッチなど、展示の美術品は多岐にわたる。徳島は葉桜の季節。これから若葉芽吹き



アラン・ダーカンジェロ
Aspen, Colo

デュラスの小説の余白のようなものを絵に感じる、と寂聴らしい感想。寂聴とポップアート。その組み合はが意外にも愉しい。

アラン・ダーカンジェロ
今回の展覧会のなかでもサイズとともに存在感が大きかった作品。（横1.5m、縦1mくらいあるかも）日本ではウォーホールほど知名度はないが、アメリカのポップアートの主要な作家、アラン・ダーカンジェロ。ハイウェイを平面的に分割、また標識などの記号をモチーフとし、管理された社会の虚無感を表現。（余談だが、徳島県立近代美術館では3点ほどダーカンジェロの作品を所蔵しているようだ）

アラン・ダーカンジェロのこの絵について書いた寂聴の文章「その絵との出逢い」から一部紹介する。

私はこの絵が好きだ。デュラスの小説の余白のようなものがこの絵にあって、私の創造力を誇りだしてくれるし、夢を無限に拡げてくれる。爽やかさ、クールなものの、五月の爽やかさと、十一月の冷たさが同居している。そしてその底からたちのぼる不気味な孤独感。

寂聴は、この絵を知人から、全く画面の名前も知らずに購入した。部屋に飾ると無限に空間が広がったという。

熊谷守一 臥裸婦

小説『おだやかな部屋』にも出てくる油彩画。展示では下に小説の一文もある。

その展示作品の中から、印象的なものをいくつかここで紹介したい。
(作品は展覧会パンフレットより)



「芸術新潮」 1970年6月号

くとき。お出かけついでにアートと文學の散策を、徳島県立文学書道館でさしてはどうだろうか。

太田治子さん来徳

「寂聴 美の「コレクション」」展開催に合わせ、4月22日に作家の太田治子さんが「寂聴さんと美の世界」の題で講演されました。太田さんは美術に造詣が深く、池田満寿夫の観音とロダン作のクロードルの頭像との類似、「日曜美術館」のアンシスター時代に出会った美術家の印象、高校時代に寂聴さんと軽井沢の別荘で泊まった話や、中野本町通りの蔵の家で涼太に会った話など、ユーモアを交えてなつかしく語ってくださいました。

「瀬戸内寂聴物語」発刊

徳島新聞に柏木康浩記者が1年間連載し、好評を博した「瀬戸内寂聴物語」が4月に刊行されました。折々の寂聴さんへのインタビューや代表作の紹介に加え、たくさんの写真、年表、語録など盛りだくさん。寂聴さんの魅力あふれる、寂聴研究の入門書ともなっています。

出会い

森 裕子

このたび「寂聴を詠む」の俳句募集に、担当者の一人として関わらせていただきました。他の俳句大たくことになりました。他の俳句大会の要項などを参考にして、相談しながらチラシを作成しましたものの、どうくらいの応募数になるか見当がつかず、不安な出発です。投句の締切は8月15日です。皆様のご応募をお待ちしております。

4月1日2日に、山口県長門市で「みすゞコスモス交流会」が開催されました。4年前に初参加しましたが、その後コロナで中止が続き、ようやく今回、金子みすゞ生誕120年記念の会に、二度目の参加が実現しました。120名余りの盛大な懇親会では、徳島の絵本作家羽尻利門さんの「こだまでしょうか？」の絵が映像で流れ、郷土の作家に出会えたことがとても誇らしかったです。

次の日は、みすゞさんの法要が遍照寺で行われ、その後、講演会に向かう途中、講談師の神田京子さんと話す機会がありました。こちらが徳島からと知ると、神田さんの方から、「徳島といえれば寂聴さんね、ナレーシヨンをしたことがある」と言ってくれ、タイミングよく機関誌「寂聴」を手渡すことが出来ました。講演会の後に行われた講談は、金子みすゞの生涯を親しみやすく

明るく語るすばらしい舞台でした。

その会場で、歌手の吉岡しげ美さんと隣席になり、ドキドキしながら、話をしました。徳島にコンサートに来た時のことでも、担当の竹内紀子さんとのとも、よく覚えておられ、機関誌「寂聴」を手渡すことが出来ました。吉岡さんと一緒に仕事をされている映画監督で鳴門市出身の浜野佐知さんに、「寂聴」を渡してもらえることになりました。

社会に出て、自分自身に責任をとらねばならなくなつた頃から、自分が所謂世間でいう所の幸福とは、至つて折り合いの悪い人間なのだという自覚が次第に明確にされはじめた。人より多分な過剰な情熱（情欲とは断じて違う）をもてあましながら、なぜ世間の引いてくれる平穏の枠内におさまりきらないのかと、自分をふりかえることが度々身辺に起きたあ

ました。

みなさん、いろいろな女性の人生を歌つたり、語つたり、撮つたりしておられる方々ですので、寂聴さんの人生や作品に興味を持つていただき、歌や、映画や、講談になつたら素敵だと、勝手に夢を膨らませています。

金子みすゞのふるさと長門市仙崎にはみすゞさんを愛する人々が集まり、残したい伝えたいという熱意が町中があふれていきました。寂聴さんの故郷徳島の人間の一人として、私も何かしたいと、改めて感じた山口への旅でした。

先日、徳島新聞で、寂聴さんの写真展の記事を読み、早速、展覧会会場に行つてきました。本当に楽しそうに笑う寂聴さんの写真にたくさん出会いました。写真家の西田茂雄さんに機関誌の投稿をお待ちしています。

寂聴のことば

がついたのだ。
漬んで水の動かないおだやかな淵の中では棲息し得ない魚のような自分の習性を認めないわけにはいかなかつた。烈しくなだれ落ちる断崖の瀑布に逆って鋭い鞭のような飛沫を浴びながら孤独に泳ぎ登る魚に自分をなぞらえたかつた。

「幸福」より（1980年刊）

短編小説集『幸福』所収
事務局長 竹内紀子

これからも、いろいろな方に出会い、寂聴さんのお話をし、一人でも多くの方に記念会に入つていただきたり、機関誌に投稿してもらえるよう活動したいと思っています。

事務局からのお願い

・新年度になります
たので、
会費3000円の振
込みをお願いいたし
ます。
(阿波銀行 蔵本支店
普通 1229692
号の原稿締切りは9
月15日です。皆様
の投稿をお待ちして
います。)

瀬戸内寂聴記念会 事務局
〒770-0856 徳島市中洲町3-40-802
Fax 088-661-3292
email norikomizugame@yahoo.co.jp